1953年6月16日　第三種郵便物認可

2021年10月18日（月）　3098号　隔週月曜日発行

民主青年新聞

●ホームページ　www.dylj.or.jp　●Eメール　minsin@dylj.or.jp

見どころ

新政権は安倍・菅路線の継承　憲法９条破壊を許すな（３面）
どうなる？　学習指導要領改訂　（６、７面）
お金の心配なく学べる社会を一緒に実現しよう（10、11面）

日本共産党躍進で青年の願い実現する政治へ

「マイ訴え」を作り、自分たちの選挙に

総選挙は、日本共産党の躍進によって政権交代を起こし、青年の願いを実現する新しい政治をつくる歴史的な選挙です。３中委決議に基づいて、各地で「マイ訴え」（「なぜ自分が日本共産党を応援するのか」というスピーチ原稿）が作られ、行動が広がっています。「マイ訴え」作りの経験と総選挙に向けた同盟員の意気込みを紹介します。

（文中は一部仮名、塩田悠玄記者）

▶戸出さん（写真左）は、総選挙で日本共産党を伸ばしたい思いをスピーチした（3日、日野）

自らと青年の願い実現する選挙へ

東京都・南多摩地区委員会では、総選挙に向けて、自分たちの言葉で「なぜ日本共産党を応援したいのか」という思いを出し合いました。「政治の問題で自分ごととして考えるようになったことは何か」「日本共産党が伸びていくことで、どんな社会に変えていけそうか」なども話し合ってきました。

「マイ訴え」に込めた思いを交流する場で、都委員の戸出明帆さんは、高学費やブラック企業の問題を変えたい思いを語りました。

「自分は大学卒業と同時に２４０万の借金（奨学金）があって、月１万３千円くらいを15年間かけて返済する。今はコロナで職を追われる人もいるし、自分も体調面の不安もあるから、働き続けられるか全然分からない。若い人は特に低賃金だし、それで奨学金を返させる制度がおかしい」と戸出さん。「自分たち（政権与党）にとって利益のある人たちだけが良い思いをする社会ではなくて、国民のための政治をちゃんとつくってほしい。国の予算も軍事費ではなくて、福祉にもっと使ってほしい。だから、国民のための政治をずっとうったえ続けてきた日本共産党に伸びてほしい」と話しました。

都委員の大内瑞月さんは同時に、日本共産党が伸びれば絶対に政治が良くなる確信も持てて、政権交代を起こしたいと思うようになった」と話しました。（大内さんの「マイ訴え」は2面）

地域班の木田修さんの「マイ訴え」に込めた思いを受けて、議論はさらに深まりました。木田さんは、コロナ感染症の被害が拡大する中での東京五輪・パラリンピック強行のおかしさ、飲食店や中小企業への支援の少なさ、自宅療養の問題を挙げ「こういうのは誰が見てもおかしい。困っている人を見捨てるような、そういう冷たい社会になっている。そして、明日には自分が見捨てられる立場になるかもしれない」と強調しました。「今回の総選挙はそういう困っている人を置き去りにする政治を変えるチャンス。投票行動でおかしいことには『おかしい』と意思を示そうと呼びかけたい」と話しました。

みんなの力出し切って

大内さんは、木田さんの話を受け、「すごくいい『マイ訴え』だと思う。私は、安倍・菅政権しか知らないから、政治が変わらないことが当たり前だった。変わるかもしれないってことがすごく今回楽しみ」と応えました。「それまで投票に行ったこともなく『政治に興味はない』という友だちから、『政権交代って最近よく聞くよね』と言われることもあった」と話した大内さん。政権交代が幅広い層に選択肢として見えていることを話しました。

また、戸出さんは「日本共産党は草の根の組織があるのも強み。市民の声を直接聞いて、都議会や国会にちゃんと届けてくれる」と話しました。交流後、日本共産党青年学生後援会の駅前宣伝に出かけ、「マイ訴え」をスピーチしました。

今後の「マイ訴え」の活用について、大内さんは、「一度作ったら終わりではなく、『マイ訴え』をたくさん作って、宣伝に出るたびにスピーチしていきたい」と言います。また、「マイ訴え」に同盟員それぞれが込めた思いを交流することの意義について、「交流するまでは『私だけ熱くなっているのでは？』と思うこともあったけど、それぞれが私と違う方向で選挙への関心を持っていることが分かり、自分になかった視点も得られて、活動していく上で元気になる。そうやって交流することで組織としても活動しやすくなる」と話しました。

（2面につづく）

戸出さんの「マイ訴え」（一部抜粋）

私が総選挙で何を変えてほしいかと考えたときに最初に浮かんだのが、異常に高い学費や経済的な差によって学べない人がいる、という事態です。社会ではよく（高等教育は）「受益者負担だよね」と言われたりしています。しかし、学んだことは学んだ人がいずれ社会に働きに出ていくことで、国や社会に利益が還元されます。受益者は大学生だけでないと私は思っています。利益があるのであれば、それを国が支えないのはおかしいことだと思います。学費をもっと下げて無料でも（大学などに）通えるようにしてほしい。

二つ目は、ブラック企業をなくしたいということです。今この社会は、残業しないと暮らしていけないくらい低賃金で働かされている人たちがたくさんいます。そんな中で、残業代が支払われないなどの異様な働き方をさせられている人もいます。過労死という言葉が世界で通用するようになってしまっています。そんな社会はなくしたいです。

三つ目は児童相談所の体制をもっと充実（ぎゃくたい）させてほしいということです。子どもの虐待死の報道が増えていると思います。児童相談所の財源が足りないのであればもっと財源を増やしてほしい。

なぜこの社会が変わってほしいかといえば、今の政治が国民の方を向いていないと思うからです。今の制度の中で苦しい思いをし、大変な立場に置かれている人がたくさんいる。そういった人たちの声を聞く社会をつくってほしい。それができるのは、今の自民党政権ではなく、大変な人たちに寄り添い、国民の声を聞いてきた日本共産党です。だからこそ、日本共産党を応援しているし、日本共産党が伸びることで野党連合政権ができると思っています。

発行所
日本民主青年同盟中央委員会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-2
電話(03)5772-5701　FAX(03)-5772-5702

日本民主青年同盟中央機関紙

定価（税込み）月680円　〒130円　1部340円
郵便振替00180-4-106690